

大特集 早期教育が気になるママ必読!

AERA with

0・1・2・3歳



Baby

2013
12
月号
隔月刊
定価 680円

子育てという、しあわせ。

人気FP・横山光昭さんが保証
「消」「浪」「投」で
お金は貯まる!

頼りすぎ? 遠慮しすぎ?
ばあば・じいじの
ホンネ

「毎日・月イチ・半年」で違う
そうじ・整理の
最低ライン

赤ちゃんがいるから楽しい
おうちクリスマス
クリスマスプレゼント厳選31

もっと使える!
「母子手帳」

「月経」と上手に
付き合おう

人気連載
李映林の「たらの豆乳スープ」
影絵作家 藤城清治の世界

0歳から始める
読み・書き・そろばん

英語はいつから?



生活と遊び体験が、学力につながる!



乳幼児期に身につけたいのは 学力の土台になる 5つの力



1 読み・書き
ことばの力
相手の言うことや文章の趣旨を的確に理解してポイントをつかむ力と、自分の考えを自分の言葉で表現し、相手に伝える力。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4分野に分けられます。国語をはじめ、あらゆる学問でも基礎となる力です。

2 読み・書き
自分で考える力
日常生活や勉強などあらゆる場面で、自分で考えて判断する力。身につけた知識や技能を活用し、さらには、物事を筋道立てて考える力。ただ考えるのではなく、「自分でやりたいんだ」という意欲が必要になります。

5 そろばん
やり抜く力
どんなに困難なことも、一度始めたら諦めずに最後までやり抜こうとする力。やり始めたことに集中して取り組み、コツコツ根気よく続ける力。学力のみならず、強く、たくましく将来を生き抜く底力となります。

4 そろばん
試そうとする力
興味や関心があること、おもしろそうなどに積極的にチャレンジし、課題を解決するために、さまざまな方法を試そうとする意欲。答えがわからなくても試行錯誤してみるという心構えは学力全般に必要です。

3 読み・書き そろばん
思い浮かべる力
具体的な物や出来事だけでなく、相手の心など抽象的なこともイメージできる力。細かい点だけでなく、全体的に見渡すことができる感性。算数なら図形、国語なら文章を読んで、風景や主人公の心象を思い浮かべる力です。

学力の土台は 家庭で築くもの

「早期教育に懸命なお母さんは、文字でも数字でも早い段階から習得させた方が、知能の発達も早いと考えているのではないのでしょうか。しかし、本人の意思に反して先回りしても『無理やりやらされた』という嫌な思い出が残るだけですよ」

本当に必要なのは、子どもが夢中になっていることを徹底的にやらせてあげること。自分でおもしろいと思えば自然にやる。遊びを通してこそ、知能の発達が期待できるのです。

高濱先生は、小学校の高学年(11歳)から学習面で伸びる子と伸びない子の違いは、10歳までの「学力の土台」にあるといいます。それは、上記の5つの力。

「例えば、『ことばの力』は全ての学力と知力のベースとなり、算数の文章題を解く際にも必要となります。また、どんなに学力が高くても、『やり抜く力』がなければ難しい問題にぶつかったときに簡単に諦めてしまう。それでは学力は伸びません」

次ページからは、5つの力を家庭で開花させる方法を紹介していきます。

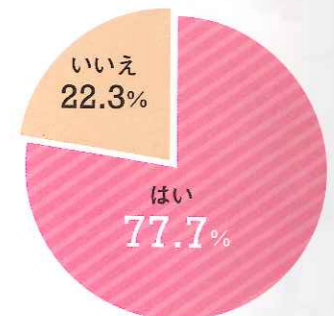
早期教育はいつ始めるの? どうやるの?

「花まる学習会」代表高濱正伸先生、教えて!

わが子の学力の芽を伸ばすために、親ができることって? 「子どもが勉強大好きになる」と小学生を持つママに評判の「花まる学習会」代表の高濱正伸先生にうかがいました。

「子どもの将来のためにできる限りのことをしたい」これが親の本音です

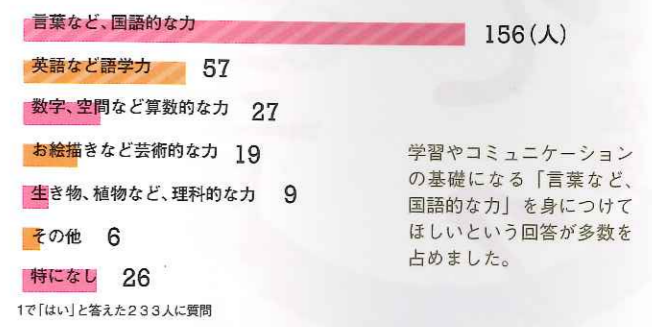
1. 将来の学力(国語・算数・理科・社会・英語など)を高めるために乳幼児期に親が積極的に関わった方がよいと思いますか?



塾や学習教室の低年齢化が進み、さまざまな情報が入ってくるため、多くのお母さんが早期教育に高い関心を持っていることがうかがえます。

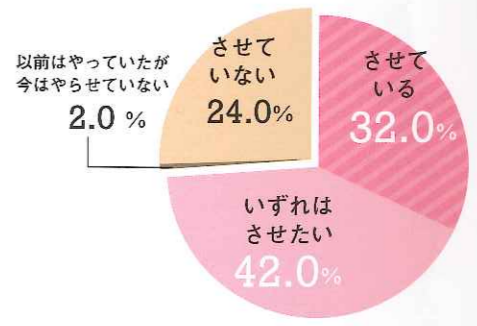
調査概要: 2013年10月3日~4日の2日間、5歳までの子どもを持つ母親を対象にインターネットで調査を実施。有効回答は300件 調査協力: マーシュ <http://www.mars-research.co.jp>

2. 最も身につけてほしい学力の基礎はどんなものですか? (1つ選択)



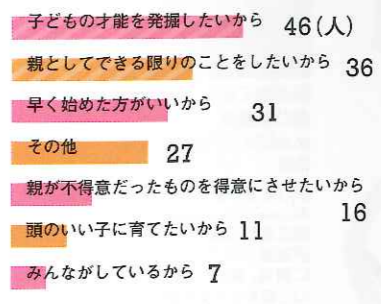
学習やコミュニケーションの基礎になる「言葉など、国語的な力」を身につけてほしいという回答が多数を占めました。

3. 現在、お子さんに習い事をさせていますか?



「させている」「いずれはさせたい」という回答を合わせると74%。もはや早いうちから習い事を始めるのは当たり前な時代!

4. お子さんに習い事をさせる理由は何ですか?



「子どもの才能を発掘したい」「親としてできる限りのことをしたい」と、子どもの将来を思う切実な親心が上位を占めました。

3で「させている」「いずれはさせたい」と答えた222人に質問

子どもが生まれたばかりの頃は「元気に育ってくれば十分」と思っていたものの、将来のことをあれこれ考えるようになると「頭のいい子に育ってほしい」と願ってしまうのが親心。編集部が行ったアンケートでも、多くのママが「学力を伸ばすために、乳幼児期から子どもに積極的に関わった方がよい」と考えていることがわかりました。

「花まる学習会」代表の高濱正伸先生は、数多くの幼児や小学生の親と接してきた経験から、早期教育についてこう指摘します。

あらゆる学力のベースとなる国語

ことばの力は 親子の会話が スタートライン

おしゃべり
する前



親の伴走ポイント

顔を見ながら おしゃべり 言い間違いは さりげなく直す

「ことばの力」は家庭での会話から育ちます。まず、親自身がきちんとした言葉で話すこと。子どもが話そうとしたら、しっかり顔を見て、話の合間にも「そうだね」とうなずいてあげる。言い間違いはさりげなく指摘し、正しい言葉を覚えさせることも大切です。

生まれてすぐの赤ちゃんには「おなかがすいたのかな」「お風呂気持ちいいね」などママ自身の気持ちを伝えるだけで、声のトーンや表情からママの言葉を受け取ってくれます。また「あー」「うー」と赤ちゃんが声を出したり、手をパチパチしたりしたら、まねをしながら言葉も添えてみましょう。

夢中で遊んでいる時
どんな声かけを
している？

読者の
熱中写真館

写真提供：読者

おしゃべりが
できるように
になったら



指さしができるくらいになったら、「犬」や「葉っぱ」など赤ちゃんの指さしたものを言葉で補ってあげます。ちゃんとした言葉はまだでも、「ブーブー」とうれしそうに教えてくれたら、「クルマだね〜」とさりげなく正しい言葉を教えましょう。

高濱 Eye's



子どもは親を手本に「聞く」「話す」力を伸ばす

全ての知性や学問のベースとなる「ことばの力」。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの分野に分かれますが、「聞く力」は赤ちゃんがおなかの中にいるときから養われていて、乳幼児期は親の話を手本に、耳学問で新しいことをどんどん吸収していきます。この時期にしっかり身につけたいのが「聞く態度」。親が何でも聞き流すような態度では、将来「ことばの力」も伸びません。まずは親自身が「聞く」「話す」態度を示したいものです。

「読み」「書き」
ができるよう
になったら

子どもが字を読むようになったら、親子で順番に絵本を音読してみましょう。また字が書けるようになったら、一行日記を書くこともおすすめ。最初はお母さんが「今日の遠足は何が楽しかった？」などと質問して、言葉を引き出してあげましょう。



東京都/吉田早矢香さん
桃子ちゃん(1歳11カ月)

積み上げ方を見せたり、色の名前を教えたりしていたら、だんだんと夢中に遊んでいる最中は静観し、遊び終わったらほめます！

東京都/松本伸子さん
知佳ちゃん(1歳)



箱に入ったビニール袋を全部出すのがお気に入り。「いっぱい出したね〜！楽しかった？」と言いながら、一緒にお片付け。



神奈川県/小井塚麻衣さん
湊くん(1歳)

大好きなお絵描き中は、息子が手にとったクレヨン色の名前を赤、黄色、青などとさりげなく伝えていきます。

アメリカ/藤田春菜さん
結翔くん(2歳6カ月)



タイヤの構造や運転席のシートなど細かいところまで説明してくれるので「ママ、知らなかった、すごいね」と答えます。



千葉県/八木由希乃さん
莉瑚ちゃん(1歳)

本棚から本をひっぱり出すことに夢中。見守りつつ、本を破りそうなどときには「本は大事大事だよ」と言うようにしています。



東京都/安田さとしさん
華子ちゃん(5カ月)

カラーボールを眺めたり、持ち替えたり、投げたり、口に入れたり。そんなときに大げさにほめるとやる気満々で繰り返します。

子どものやる気がダウンする

ママの NGワード&行動

ママが普段何気なく使っている言葉が、子どもの意欲を喪失させたり、劣等感を抱かせたりする原因に！

- 1 「何でそんなことするの？」**
「無駄なことばかりしている」と、否定的な声かけや禁止ばかりしていると、おもしろいことにチャレンジする意欲や姿勢が失われてしまいます。「何だか楽しそうにやっつてね」と温かく見守りましょう。
- 2 「これくらいでやめておきなさい」**
パズルなどに夢中で取り組んでいるとき、子どもは集中力や最後まで自分で考え抜く力を育てています。できる限り「早くしなさい」とせかさず、やり遂げる達成感を味わわせましょう。
- 3 「何でできないの？」**
「自分はできない人間だ」と、自信を失ってしまいます。「今回はできなかったけど、次回はこうしてみよう」とポジティブな声かけで、自己肯定感を持たせましょう。
- 4 「〇〇は苦手なのよね」**
子どもの頃に植え付けられた苦手意識はなかなか取り払えず、「がんばってみよう」というモチベーションも下がってしまいます。「苦手」「嫌い」などの言葉は絶対に使わないこと。
- 5 ほかの子と比べて焦る**
ほかの子と比較して、追いつかせようと叱ったり、やりたくないことを無理にやらせたりすることに意味はありません。子どもは劣等感を抱き、いろいろなことへの意欲をなくしてしまいます。



親基準で子どものやる気にストップをかけないで！

「何でできないの？」「何度言わせるの？」。親はそんな言葉をつい口にしてしまいがちです。親の頭には「これくらいできるはず」「一度言ったからわかるはず」という「大人基準」があり、子どもに押し付けようとしてしまつ。しかし子どもは理解できず、自己肯定感は低下するばかりです。この「大人基準」は、子どもが持っているやる気や才能の芽をつぶす原因になることもあります。例えば、ミニカー、滑り台、ブロックで遊んでいるとき、子どもはいったんスイッチが入ると熱中して、お母さんが何度声をかけても耳に入っていない様子です。「いつまでそんなことしてるの？」と

言いたくなってしまいますよね。でもそんなときにこそ子どもは、「こうしたらどうなるんだろう？」と好奇心いっぱいを実験を重ね、懸命に考えています。子どもが熱中していること、楽しそうにすることにこそ、知性の芽があることを忘れないでください。 **「正解」か「不正解」かより「答えを出した過程」に注目** また、子どものためと思つてする「しなさい」という命令口調の声かけにも注意しましょう。親の強制下でいやいやながらやるのでは、ヤル気も、やり遂げた達成感も生まれません。さらに、幼少期からドリルなど

で詰め込み式のパターン練習だけをやってきた子どもは「なぜ、どうして」と考える意欲が希薄になり、考えることに楽しさを見いだせなくなります。それは親が、「正解」か「不正解」かばかりに注目をしたのかという過程を見てあげなかった結果かもしれません。そうなるに当然、その後の学力の伸びにも影響してくるでしょう。10年後、「言われたから、怒られたからやる」という子どもになるか、主体的に「こうしたい」と考えて、楽しみながら学習できるか。親がいかに大人基準を捨てて、子ども目線になってあげられるかにかかっているのです。

20周年を迎えた 花まる学習会「人気」の秘密

講演会はいつでも満員！テレビで紹介され人気の高濱正伸さんが代表の「花まる学習会」。人気のひみつは、子どものやる気を引き出してくれるから。とくに幼児期を大切に、座学だけではなく、思いっきり遊びつくす自然・野外体験活動を積極的に行っています。



写真提供：花まる学習会

あらゆる学力のベースとなる国語

自分で考える力が育つ 「なぜ？」「どうして？」

親の伴走ポイント

子どもの世界は「なぜ」だらけ

子どもが疑問を投げかけてきたら、すぐに答えが出なくても、親も一緒に「何でかな？」と不思議がり、「いい質問ね、すごいこと考えたね」とほめてあげましょう。子どもも「なぜ？」って考えるのはいいことなんだ」と楽しさを感じ、考えることへの意欲が育まれます。



ティッシュをひたすら出し続けるのも、「なぜ、次から次へと出てくるのだろう」と自分で考えている証拠。パズルや迷路などで試行錯誤した結果、「できた！」という快感体験をたくさんしよう。

高濱 Eye's



自分で考え抜いてわかった体験が大事

「自分で考える力」を養うためには、「自分で考えようとする意欲」が必要です。その意欲とは、自分で考え抜いて「わかった！」という快感を味わうことから生まれます。そのためには、「なぜ？」「どうして？」と子どもが持った問題意識に親

がちゃんと向き合い、答えたり、肯定したりすることが大切です。小学校に入った後「わからないことをそのままにする子」と「少しでも疑問に思ったら質問する子」とでは、学力に大きな差が表れるので要注意です。

愛知県伊豆原桂子さん 結人くん(8カ月)



足を見えてきた頃、目の前のもの、自然のもので遊ばせて、五感を働かせることを大切にしています。



東京都新井美加さん 大輝くん(6カ月)

目が見えてきた頃、ボールを転がしたり振り回したりして、中の球がどう動くかをよく見ました。



東京都河村雅子さん 潤哉くん(1歳6カ月)

色を塗れるわにのぬいぐるみに夢中で色塗り。私の方を向いたときは「上手に塗れたね！」と声をかけています。

頭の中は「なぜ？」でいっぱい

読者の熱中写真館